

看護部だより

ひまわり



迎春

2014年 1月
発行責任者：小牧加代子

VoL. 28

新年のご挨拶



年末より患者数が急増している中、ずっと患者さんと病院を支えていただいている皆さんに深く感謝致します。

2014年は、電子カルテのリプレイス、診療報酬改定、PNSの導入と前半に大きな課題があります。電子カルテはバージョンアップに耐えうる教育が計画されていますし、まだ診療報酬改定の方針が明確ではありませんが、7対1・亜急性期の看護必要度等要件をクリアする為の検討に入っています。PNSは先ず師長さん主任さんに研修を受けていただきました。具体的に皆さんと話し合いながら導入を進めたいと考えています。福井大学病院看護部で開発されたPNSの大きな目的は、多重課題を抱えた看護の現場で一人より二人の看護判断が安全の保証につながること、言葉や記録では伝わらない看護の知識、技術、考え方の微細な暗黙知が伝わり互いに成長できることにあります。記録の効率化や補完の考え方により、超過勤務の減少にもつなげたいと考えております。いずれも、看護部が一丸となり、他職種も含めて協働しなければ達し得ないと思います。限られた資源の中ですが知恵と意見を出し合って、より働きやすく成長できる職場にしていきましょう。今年も皆さんにとって素敵な一年になりますようお祈りいたします。

看護部長 緒方 くみ子



桜島初日の出

新年あけましておめでとうございます。

年末から患者数の増加に伴い、頑張っていただいている皆さんに、深く感謝いたします。

2014年は診療報酬改定を控えて、看護部はもとより院内の準備、検討が行われています。

現在、当院は地域医療の中核として、急性期医療を中心とした様々な役割を担っています。今後の国の方針は、病床数の削減や、各医療機関の役割機能の明確化を求めています。同時に地域を中心に医療・

介護・福祉がさらに連携を深めていくような地域包括ケア体制の確立、住み慣れた地域でより良い生活ができるような体制づくりを進めています。その方針の中で、医療の体制は大きく変化しつつあります。しかし、今後どのような変化が起きていても私たちがなすべきことは、「患者さんのために」どのようなことができるかを常に考えていくことだと思います。そのためには、自分たち自身が健康で、やりがいをもって働くことが第一だと思います。

昨年は、認定看護管理者教育課程サードレベル研修に参加させていただきました。サードレベル研修は、「時代の変化を見し、柔軟な発想、変革力を有する看護管理者の育成」を教育理念に掲げています。少しでもこの教育理念の内容に近づけるように、皆さんの協力を得て、頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

副看護部長 長井 砂都美



がんサロン ひだまり

がん患者さんとご家族の方が情報を得たり、病気の悩みや体験等を語り合う場所があればという患者さんやスタッフの要望もあり、がんサロンを開設することになりました。サロンの名称は、院内の職員に応募していただき、「ひだまり」の名称に決まりました。たくさんの応募をしてくださりありがとうございました。

平成25年12月よりがんサロン「ひだまり」として運営を始めています。「ひだまり」では、病気の悩みや体験などを語り合うことで、不安の軽減や気分転換に繋がり、また心の癒しの場を提供できるようにと運営を行っています。スタッフは医師や看護師・臨床心理士・ソーシャルワーカー・薬剤師栄養士・セラピストなどのメンバーで構成されています。

12月は13名の患者さんやご家族の方が参加してくださいました。参加された患者さんやご家族同士またスタッフも加わりお話をすると中で、体験された方しか分からない胸の内など、ご自身の体験や不安など話され帰られる際には、「色々と勉強になりました」「心が和みました」「また来ます」などの声が聞かれました。参加して下さる方々のこれまでの体験やお気持ちに寄り添いながら「ここに来て良かった」と思ってもらえるように、これからも運営を行っていきたいと思います。

入院中の方、または外来診察の待ち時間なども利用して、立ち寄って頂けたらと思います。また随時がんに関する情報や質問、不安などがありましたら患者サポートセンター・がん相談支援窓口にて個別で対応を行っております。お気軽にご相談ください。

患者サポートセンター・がん相談窓口
月曜日～金曜日 9:00～17:00
土曜日 9:00～12:30
緩和ケア認定看護師 松若

12/13 看護部教育講演会

「～夢を諦めない～」 講師：島袋 勉先生

今回の講師は、TV「奇跡体験、アンビリバボー」等でも紹介された島袋勉先生をお招きました。踏切事故で両足を切断、複視、高次機能障害の記憶障害を負いながらも「あきらめなければ夢は実現できる」と義足でフルマラソンや登山に挑戦されています。

講演を通して様々な困難に遭いながらも、自分の置かれている状況から逃げずに前向きな考え方で目標に向かって取り組まれている姿に感銘を受けました。

「言い訳をしない」「あきらめない」「目標をしっかりとつ」「困難なことからチャレンジすればその他のことが簡単に出来る」など、次々に話される言葉や考え方がとてもポジティブで驚かされました。私たちの業務にも参考になることがたくさんあるように感じました。

自分の環境や能力に不満のある人へ「自分の環境は恵まれている。」

自分の夢をあきらめている人へ「あきらめなければ夢は実現できる。」

そのようなメッセージを込めた講演でした。講演に参加出来なかった方や興味のある方はDVDを頂いていますので教育担当へ声をかけてください。また、本などもあるので読んでみてはいかがでしょうか。

RSTの活動



呼吸ケアの質を高め医療安全に貢献するとともに適切な呼吸ケア・リハビリテーションが提供されるようサポートすることで患者満足度を高める事を目的として、2013年6月よりRST（呼吸サポートチーム）を立ち上げました。メンバーは医師、看護師、理学療法士、臨床工学士で毎週水曜日にチームで回診しアセスメントを行い、ケアの側面から病棟看護師へのアドバイスなどを行っています。

症例数は年間60例程度と予測されそれほど多くない現状ですが、人工呼吸器のケアと管理が安全かつ適切に行っているようにサポートできればと考えています。

まだまだ試行錯誤しながら回診を行っているのが現状ですが、見かけたら気軽に声をかけて下さい。

今後はRST主催の勉強会企画や、回診のペースを2回/週に増やすなど積極的に活動していくことを考えていますのでよろしくお願いします。

集中ケア認定看護師 猿樂

糖尿病認定看護師の活動

昨年7月糖尿病看護認定看護師の資格を取得し、早いもので半年経過しました。

近頃は、糖尿病患者さんの看護で困った時など、皆さん方に声をかけていただけるようになりました、とてもうれしく思っています。

12月からは、内分泌外来に受診される糖尿病患者さんの療養指導にも入らせて頂き、学んだ事を活かせる喜びを感じています。

現在「糖尿病の人と糖尿病を否定できない人」を合わせると成人の4人に1人は糖尿病と言われています。入院患者さん160名中40人は糖尿病の可能性があるという事になります。私たちが早期に関われば、脳梗塞や心筋梗塞の再発防ぐ事が出来るはずです。

現在1人でチームを立ち上げる準備を進めながら、一緒に頑張って下さる方を随時募集しております。糖尿病認定看護師 濱田





12/12 ウォーキング研修に参加して

看護師になり2年目も後半を迎えて、今回メンバーシップの講義を受け個々がチームメンバーとして振り返り今後の課題を持つことができたと思います。

早くも来年はプリセプターとして新人さんの指導を行いますが、「自分が新人だった頃を振り返り共に成長していくように」と目標を持っています。女子更衣室前に目標を掲示していますので皆さんご観覧ください。

3階西病棟 飛松



11/22 人材育成プログラム研修に参加して

平成25年11月22日に講師長野玲子先生による「いきいき看護」をテーマに講義を行って頂きました研修内容は、先生が看護師として働いていた時の、病院での出来事や看護について、また看護師として働く人達の多くの事例をあげて話をして下さいました。

訪問看護をしている看護師が、春に患者さん宅を訪問した際に季節を感じてもらうため足浴をする時に桜の花びらを浮かべた事例や事故で下肢切断をした患者さんとの関わりで、患者さんが好きだった松林に行き、写真を撮影し「代わりに散歩してきました」と、写真を渡すなど、どの事例も心のこもった関わりをされていました。私は日々の患者さんとの関わりを振り返り研修の中で紹介された事例のような、相手の事を想い、相手のことを考えた看護が自分にできているのか改めて考える機会となりました。今後自分にできる心のこもった関わりをしていく心がけていきたいと思います。

手術室 長元

11/26 専門研修緩和ケア研修に参加して

9/10に緩和ケア専門研修2回目「呼吸療法」について、緩和ケア認定看護師松若看護師と理学療法士堀田さんにて、講義と実技を行って頂きました。2人1組になり、呼吸困難の訴えのある患者への対応について実技を行いました。実際にやってみたことで、とてもよく理解が出来ましたと、アンケートでの意見も多く聞かれました。また院外の参加者も積極的に質問していました。その場で質問しながら、実際に実技指導が行えたので、とても勉強になったと思います。早速行ってみますとの意見も聞かれました。このような研修により多くのスタッフが参加できるように、教育委員として今後も取り組んでいきたいと思います。

4階西病棟 西川

11/28 再就職支援研修者の臨床現場の受入れを行って

再就業支援研修参加者は、4階東病棟HCUをメインに病棟での見学実習をした際に、担当スタッフとして関わらせて頂きました。育児の為に現場から離れていた方で、HCU内で輸液ポンプ、シリンジポンプの取扱い方法、救急カートの中身、個室でのNIPPV使用者のNIPPV機械の見学、配膳・下膳の実際、麻薬受取方法など見学して頂きました。

私自身も育児で1年間現場を離れましたが、育児休暇が終わるころには現場に戻る不安で夜眠れませんでした。1年離れただけでも不安なのにそれ以上現場から離れていて、かつ現場に戻る事を考え始めることが決心や莫大な不安などを考慮し、今回の見学実習が少しでも不安の解消になればと他のスタッフも交えながら、できるだけ笑顔で対応させて頂きました。見学実習を終えた後に、当病棟での見学実習を喜んで下り、1月より当院へ就職して頂いたと知りホッとした。もし現場に戻る事を考えている方がいらっしゃったら、今回のような研修に勇気を持って参加されてみてはいかがでしょうか。

4階東病棟 西野

H25年度認定看護管理者セカンドレベル教育過程研修に参加して

昨年の9/5～11/15の期間のうち33日間、研修に行かせていただきました。研修は①中間管理職に求められる基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する。②施設の理念・看護部の理念との整合性をはかりながら担当部署の目標を設定し、その達成を目指して看護管理過程が展開できる能力を高めることを目的に、「管理」の最前線で活躍されている講師の先生方から、「管理とは何か」基本的かつ根本的な問題について理論的に学びました。

研修中は自分の未熟さを痛感するばかりで、課題レポートも辛かったですが、共に学ぶ仲間に出会いみんなで支えあったことが、この研修を乗り越えられたのだと思います。今回の研修参加の貴重な機会を与えてくださった職場の皆様に感謝し、今後の看護管理において学びを実践に活かしていくよう邁進したいと思います。

教育担当 小牧

11/24 PNS研修に参加して

回復期病棟ではパートナーシップ・ナーシング・システム「PNS」という新しい看護方式で看護を提供しています。今回、より充実した体制を整えられるよう受講しました。

PNSに変わることでスタッフの混乱はあると思いますが、「できない」のではなく「どうしたらできるのか」考え方の転換が必要であり、そのためにはパートナーシップ・マインドの「自立・自助の心」「与える心」「複眼の心」を意識し、その日の看護ケアをどう充実させていくかをペアで話し合うことが重要だと思います。今後はペアそれぞれの「違い」を最大限に活かし看護ケアにつなげていけるよう病棟全体で取り組んでいきたいと思います。

回復リハ 福永

マイブーム

3階東病棟 大脇

私のマイブームは将棋です。将棋は81マスの盤上に決められた駒が並び相手方の王（王様）を詰めるゲームです。チェスも似たようなゲームですが、チェスは取った駒が使えないのに対して将棋は相手のとった駒が自分の持ち駒として使え最後の最後まで勝負はわからないというゲームです。

私が小学生の頃、羽生善治棋士が7つある将棋のタイトルを総なめにしたニュースをみて将棋を知るきっかけとなりました。駒の動きや戦法を自分で調べ研究したり、詰め将棋をしたりしていましたが、いつしか頭を使う事より、体を動かすスポーツなど様々な事に興味を持ち、将棋は疎遠になっていましたが、3年ほど前数年ぶりに将棋をする機会があり指しましたが、目もあてられないくらいボコボコにされ、くやしくなり再び将棋への熱があがりました。プロの棋譜をならべ各戦法の研究や詰め将棋を解いたり対戦したりと、やればやるほどのめりこんでいます。自分が将棋を知るきっかけとなった羽生棋士も40歳代となりましたが今でもタイトルを3つ持っております、数多くのタイトル戦に出ていた姿をみていると自分も頑張らないと思いません。



2/27 看護研究発表会のお知らせ

毎年、開催している看護研究発表会を今年は2月27日に開催いたします。

今回もステップ研修のメンバーが中心となって研究計画書立案から2年間かけて取り組んできました。看護研究の必要性について学び、患者に向けられる看護の視点を持ってテーマを見つけることから始め、多くの研究を検索し学会にも参加するなどしながら、データ収集や結果の整理などを進めて今回の発表を迎えます。看護研究は苦手ですというところからのスタートで本当に大変だったと思います。忙しい中研究に参加してくださった方々など、より多くのみなさんの参加をよろしくお願いします。 手術室 村尾

編集後記

明けましておめでとうございます。みなさんはお正月に初詣に参拝に行きましたか。私たちが住む薩摩川内市には「一宮（いちのみや）」と呼ばれる「新田神社」があります。一宮とは、日本に66ヶ所ある最も格式の高い神社のことです。その一宮が鹿児島県に3ヶ所あり、新田神社・鹿児島神宮・枚聞（ひらきき）神社です。新田神社は邇邇芸尊（ニニギノミコト）の墓を祀ったのが創始とされています。また、可愛山陵（えのやまのみささぎ）である陵墓と神社が一体になっているのは、全国でも珍しい形態と言われています。今年まだ参拝に行っていない方は、是非由緒ある神社巡りをして、今年のお願い事をしてみてはいかがでしょうか。ちなみに私は今年に入り4ヶ所の神社巡りをしてきました。「今年1年みんなが健康で元気に過ごせますように」

（小牧）

ミニナラティブ

外来 栗原

「看護師さん！帰って来たよ。救急車で鹿児島の病院まで一緒に行ってくれたよね。声で直ぐ分ったよ。あの時は、本当に勇気付けられた・・・これからも、よろしくね。」この言葉は心臓カテーテル術目的で鹿児島市内の病院へ搬送となり治療を終えた後、当院へ戻って来られた患者さんと交わした会話です。

血管造影室の担当になった当初、急性期で短時間での関わりでは患者さんは苦痛や不安など様々な思いや体験から、関わった看護師の事は覚えていないだろうと思っていました。心臓疾患発症直後の患者さんは健康に破綻が生じ不安や苦痛・恐怖など様々な状態にあり、そこに関わる私はとにかく安全に確実に治療を終える事を優先に考える割合が大きかったように思います。患者さんと交わしたこの会話は、急性期だけではなく発症直後から元の生活に戻るまでを見据えて幅広い領域での看護を提供していくなくてはならない事を再認識し、私にとってこの言葉は大きな意味を持っていると感じました。急性期でカテーテル室を退室した患者さんとの関わりはその場だけで終わりではなく退院後、外来での関わりから継続した看護ができるようこれからも頑張って行きたいと思います。



緩和ケア委員会
ハンドベル

ハンドベルに
挑戦しました！！

